バリ伝統芸術舞踊の技法と構造特性
—レゴン・クラトン・ラッサムの分析を通して—

中　村　美奈子

本研究では，「宗教との直接的な結び付きがなく，人に見せるために演じられる高度なテクニックを必要とする舞踊」に対して「バリ伝統芸術舞踊」の名称を与えた。具体的な舞踊としては，1930～1960年頃に創作され，今ではバリの舞踊の古典的レパートリーとして定着している，タリ・ルパスと，それらの舞踊が創られる基礎となった，宮廷舞踊に起源をもつレゴン・クラトンである。これらの舞踊は高度なテクニックを要し，純粋に舞踊の美しさを鑑賞するために，訓練された踊り手によって踊られる。これは，芸術志向の現われであり，将来的には，これらの舞踊がバリの伝統芸術舞踊として発展していく可能性を多分にはらんでいる。

〈研究目的〉

バリ伝統芸術舞踊を構成する要素には，舞踊の動きを分節化している多くの「型」があり，その連結によって舞踊が成り立っている。舞踊技法は，ある程度体系化されているが，まだそれほど厳密に整理されているわけではない。そこで本論文では，舞踊の各型の指す動きと，その型によっていかに身体が構造化されているかを検討し，バリ伝統芸術舞踊の女性舞踊の基本舞踊といえる作品である「レゴン・クラトン・ラッサム」の型の連結を分析することにより，実証的にバリ伝統芸術舞踊の技法と構造特性を明らかにすることを目的とする。

〈研究方法〉

バリの舞踊技法について書かれたインドネシア語の文献「Gerak Tari Bali-Laporan Penelitian」（バリ舞踊の型——調査報告）(注1) に記述された型を中心に，各先行研究の中にみられる舞踊の型や動きに関するデータを加え，更に，自らの6年間にわたる舞踊経験と現地調査(注2) をふまえて，舞踊技法について検討を加える。すなわち，「舞踊の型」としてバリの舞踊家によって体系化されたものを手がかりに，舞踊の構成要素，動きの意味単位を見つけ動きの質的，視覚的な分析を行う。更に，それらの要素が，実際の舞踊作品のなかで，どの様な機能を持ち，また，どのように有機的に構造化されているか，つまり，型どうしの連結の法則，フレージングの特性を「レゴン・クラトン・ラッサム」のうちの4曲中に見つけ出してゆく。

主要な舞踊の型の動作分析には，ビデオプリンターによるフィルム分析を，舞踊構造の分析には，独自に考案した舞踊譜を用いた。

〈バリ伝統芸術舞踊の技法と構造特性，考察結果〉

バリ伝統芸術舞踊の技法は，アグム——静止のポーズ，タンダン——空間移動の動き，タンキス——静止位置での上肢や下肢の動き，タンカップ——感情表現と目や首のうごきに，四分類されている。これらの各技法を考察した結果，タンダンやタンキス系の動きには，からだの各部を細かく分離させて意識的に動かすというよりは，ある中心となる動きがあって，その動きに連動して体の各部が動かされるという特徴がみられた。また，タンキス系の手の動きの型は，重心の上下動を伴っており，これも型と切り離して考えることができない要素となっていた。

これらの型を舞踊の構造の中において考察した結果，舞踊の型には，舞踊フレーズをつなぐ機能を果たしている型，曲の終止を示す型，静止ポーズ，アグムをきめるための型，アグムを強調する型，などの機能を持つ型が多くあることが明らかになった。

〈宇宙観の反映としての舞踊〉

バリの音楽と舞踊は，バリ・ヒンドゥーの宇宙観を反映しているとよく言われている。すなわち，宇宙創造時の激しい振動を音楽と舞踊が写しとっているのではないかという考え方がある。

音楽の場合，それは，同じ種類の二つの楽器が少しだけ音高をずらして調律されているために，演奏すると生じる「うなり」である。これをバリの人々はオンバッ ombak（波，震動）とよんでいる。そして，音楽を聴く時も旋律を聴くというよりも，音響の融合体を体感するというような聴き方をするということが既に指摘されている。

舞踊の場合，舞踊技法と構造の分析から，タンダンとタンキスの型には，上下，左右に体を波打たせたり，震動させる技法が多く，また，一曲の作品の中でのそれらの使用回数も多いことが明らかになった。つまり，楽器の「うなり」のように，舞踊は体から波や振動を作り出しており，また，それらの動きを核としながら舞踊は進展している。

バリ伝統芸術舞踊においては，音楽と舞踊は不即不離の関係にあり，楽器の「うなり」を身体の振動に見，身体の振動を楽器の「うなり」に聴くような，音楽と舞踊の融合体として増幅された時空間が，現出されるのである。

（注1）Bandem, I Made Gerak Tari Bali - Laporan Penelitian. Bali : ASTI, 1983

（注2）現地調査：1989年3月，1989年7月，1990年3月，1991年8月，各1か月ずつ，バリのインドネシア芸術大学（STSI）の舞踊教師イブ・パルティニ（Ibu Partini）に師事した。